



# いきいき北っ子

## 保育教育の大切さと家庭での働きかけ

蒸し暑いすっきりしない天気が続いていますが、梅雨明けはもう少し先の様です。すっきり晴れた日が恋しい毎日ですが、子ども達は元気いっぱい。園庭で遊べなくても室内で友達と工夫しながら遊んでいます。

先日、年長児の室内遊びの様子を見ていたときの事です。「ありがとう」「ごめんね」という言葉を自然に遣っている子どもを見ました。友達から遊び道具を借りた子が「ありがとう」と、笑顔でお礼を言いました。お礼を言われた子は、少し恥ずかしそうでしたが、うれしそうな表情を浮かべていました。一方、「ごめんね」を言った子は、偶然、友達とぶつかってしまったようです。ぶつかってびっくりしたのでしょうか、子ども同士見つめ合う時間(沈黙)が続いた後、ぶつかった側の子から素直に謝ることで何事もなく過ぎていきました。

年長児ぐらいになりますと、友達と折り合いをつけることができるようになります。そうした姿が見られ、間違いなく子ども達は成長していることを実感しました。

さらに、成長を実感した場面がありました。年長児が「時の太鼓」に参加しました。西順寺の駐車場に集まった園児たちは、テント下に敷かれたビニールシートに靴を脱いで待機することになりました。担任の先生が「靴は先生の靴のとなりに並べてね。」とだけ話しました。その後、園児たちは一人一人考え判断し、自分の靴をきちんと並べて静かに座りました(右の写真参照)。その後、北方民謡保存会の方といっしょに北方シャンソンを踊ったあと、北方町文化財保護協会の方から話を聞きました。太鼓の音が時計の役割をしていたことを学びました。ここでも話し手の方を向いて静かに聞くことができました。



こうした姿は、家庭や園において、温かな励ましの声かけを継続的に行ってきたからこそ身に付いた姿です。自慢できる姿として価値付けをしました。

これからも保護者の皆様と協力し合い、お子さんの伸びを認め励まし、共に歩んでいければ幸いです。余談ですが、登園時に子ども達が「おはようございます」と、進んで声をかけてくれます。なかには挨拶をせず通り過ぎようとする、「なんと言うのかな?」と、声をかけてくださる保護者の皆様の働きかけに驚かされました。あらためて感謝申し上げます。

### 素敵な花がこども園の玄関でお出迎え中です!!

今、こども園の玄関前に訪れた人をおもてなしするかのよう、美しいユリやバラの花が咲いています。大門自治会長(こども園運営協議会長)の住田 誠 様からいただきました。ぜひ、お子さんと一緒に迫力ある美しい花をご覧ください。

